

巻頭

小田島親守組合長インタビュー

P5 今後の農産物管理 (営農技術情報)

P6 乳牛の分娩間隔と乳量について

農繁期を迎えました

農作業事故には十分注意を!!



(写真：国営農地再編整備事業 上野慎悟さん圃場 5/10 水稲乾田直播播種の様子)

# 小田島 親守 代表理事組合長に聞く

## 就任2期目を迎えて

平成27年4月3日、今金町農業協同組合第47回通常総会が行われ、その後の理事会において新役員体制が発足しました。

組合長として2期目となる小田島組合長へ、今後の展望などを伺います。



▲小田島 親守 (ちかもり) 組合長

—まず始めに2期目にかける意気込みを伺います。

TPP・農協改革など将来的な事へ不安に思っている方も多いと思います。今金町農協としてはその不安を払拭するためにも、どうやって組合員の経営の安定化を図っていくか、そして最終的には所得を確保・向上していくか。このことに、農協として力を注いでいきます。そのためにも各品目の振興が欠かせませんが水稲・畑作・酪農畜産の三本柱プラス野菜。これらをどう充実させていくか、どれも欠かす事が出来ません。

—振興にあたっての課題は

どの品目の振興も重要性は同等ですが、あえて言えば急を要するのは酪農への対応だと考えています。若い後継者が多いのは大変喜ばしい事ですが、牛舎設備なども老朽化が進んでいるし、例えばTMRセンターや作業受託の仕組み作りなど、コストを抑えつつ将来にわたって持続的に生産を続けていける体制作りをどう支援していくか、考えどころです。勿論、酪農家自身のビジョンとまとまりがなければ農協主導だけでは難しいですが、今金町農業を支える一つの柱として、現状の乳量・販売高の維持向上が必ず必要です。酪農業の基盤強化に任期中に取り組み、道筋をつけたいと考えています。

—他の品目については如何でしょうか

まず水稲ですが、これは農家戸数減少に伴い規模拡大が必至なので、省力化技術の確立支援と併せて、コスト低減に取り組んでいく必要があります。今後も主食用米を中心として戦略的に販売を行い、系統以外の自主的な販売努力も引き続き行っていきます。

畑作では、馬鈴薯の相場が近年全国的に低下傾向にはありますが、ブランドとして採算性が向上するよう策を講じていきたいと考えています。大豆・麦・甜菜といった戦略作物と比較しても、より遜色ないようにしたいかなければなりません。やはり産地の力を高め、次に繋げていくには男爵を中心とした4年輪作が基本かつもっとも重要な事だと考えます。

野菜については重点品目に集約していき、栽培面積と販売額の増加を通じて産地として力を高めて行く必要があると考えています。自家労働力による経営では、販売額増加に限界がきているので労働力の確保がどうしても必要です。海外から人材を確保している先進地の事例も視察等で見せてきていますが、生産量・販売高を伸ばし効果を上げています。そうした事例も参考にしながら今金でも課題に取り組んでいきたいと考えています。

—労働力確保は重要ですね

後継者の確保と共に、大きな課題です。野菜だけでなく、酪農業や受委託組織ほか何をやるにもついて回る問題になります。選果施設運営などでも避けて通れません。

最初にも言いましたが、農協の利益ではなく組合員の所得確保・向上が農協事業の最大の目的です。現状の頭打ち状態が良い、という事ではジリ貧になってしまいますから、そうした意識を皆で共有し、更なる農協事業への結集をお願いしたいと思います。

—本日はどうもありがとうございました。

5 / 15

## 田植え開始！今年も豊作を



▲田植えを行う宮北さん

5月15日、八鈴地区の宮北誠市さんを皮切りに町内で田植えがスタートしました。

近年豊作基調の水稲ですが、安定的な収量・品質を得る為には基本的な技術の励行が欠かせません。「農事電送」など営農技術・予察情報を見直し豊作の秋を迎えましょう。

4 / 下旬

## 『今金男しやく』播種開始



▲播種後マルチを被せていきます

4月下旬、ブランド銘柄「今金男しやく」の播種作業が本格的に始まりました。

ここ数年は春先の天候に恵まれ、今年も適期の播種作業となりました。ブランドとして地域を牽引する作物だけでなく、適切な肥培管理と順調な生育が期待されます。

5 / 19

## なぜなに？今金のお米



▲施設の大きさに驚く児童たち

5月19日、町内の小学生が社会科見学の一環として「函館育ちライスターミナル今金工場」へ見学に訪れました。

当日は販売課の職員が、どうやってお米が育ち、ライスターミナルに持ち込まれるのか分かりやすく説明し施設内を回りました。児童達はメモをとったり、質問をしたりと熱心に聞き入っていました。

5 / 15~

## 省力なのが魅力的！



▲コーティングした種子を取り出す水稲直播研究会 石川大輔会長

5月15日から水稲湛水直播栽培の播種準備として、籾種へのカルパーコーティング作業が始まりました。

平成19年より始まった湛水直播は当初2町8反の作付けで始まり、今年は約19町の作付け面積となりました。育苗・移植の省力化が可能で、面積拡大へ対応可能な技術として非常に有効な選択肢の一つです。

5 / 22

## 大自然でモ～のんびり



◀日進牧場へ到着

5月22日、町内の酪農家から放牧のため集められたホルスタインが日進牧場へ入牧しました。

当日は酪農畜産課、営農部職員とともに、普及所・役場・共済組合など関係機関の皆様にも応援を頂き作業が行われました。

牛たちは、秋頃まで牧場に預けられ、大自然の中でのびのびと成長します。

5 / 22

## 軟白ながねぎ 初物出荷



◀挨拶を行う今金町軟白長ネギ振興会松永会長

今金町の代表作物の一つである「今金軟白ながねぎ」の新物出荷が昨年より2日早い5月21日から始まりました。22日に行われた初セリでは今金町軟白長ネギ振興会役員らが（株）キョクイチを訪問し、セリが始まる前には新会長の松永敏和さんが市場に対して挨拶を行いました。昨年30周年を迎えた同振興会の更なる飛躍が期待されます。

5 / 27

## 「米どころ」の「勘どころ」 ～水稻奨励圃場で田植え～



◀試験品種など複数の品種を植え、調査を行っていきます。

5月27日、水稻奨励品種決定現地調査圃場において田植えが行われました。昨までは、40年以上にわたり八東西地区の中野秀勝さんにご協力頂いてきました。が、本年は八鈴地区の平原大輔さんにご協力頂き調査を実施していきます。調査圃場は、データ収集のみならず地域の技術研修の場としても重要な役割を果たしてきています。

5 / 26

## 新鮮野菜が盛りだくさん！ 「もぎたて市」が開市しました



◀皆様のご利用お待ちしております！

「もぎたて市」ファンの皆様お待たせしました！今年もAコープいまかね店にて、今金町農協女性部の皆さんによる新鮮野菜の販売が始まりました。毎朝収穫したての野菜たち、ずらりと店頭に並ぶもぎたて市は「新鮮で美味しい」「地場産だから安心」と大好評。ご来店お待ちしております！

# 水田農業の活性化へ！

～国営農地再編整備事業 平成26年度施工区 作付け開始～



▲開発者の小野寺恒雄さんが現地を訪れ説明を行いました

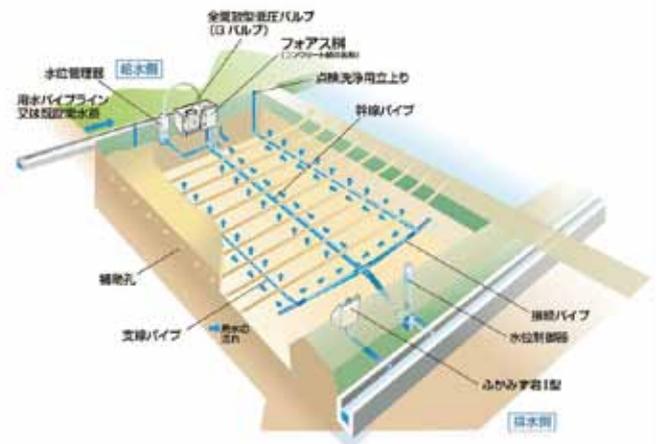
今金南地区にて平成26年より施工が始まった「国営農地再編整備事業」ですが、施工が終了した約65haの圃場でいよいよ本年より作付けが始まりました。27年以降も順次施工されていく予定となっています。

そうしたなか5月8日には、耕作者向けに「地下かんがいシステム（正式名称「フォアス」）の説明会が開かれ、関係者も多く集まりました。

地下かんがいシステム  
説明会を実施

### FOEAS(フォアス)のメリットは？

- ①水管理が容易に**  
暗渠排水で湿害を、地下灌漑で早魃を防止するとともに、作物に最適な水位を維持します。
- ②田畑輪換が容易に**  
田畑輪換が容易に行える為、連作障害を防ぐことができ、収量の安定が期待できます。
- ③地下かんがい機能を維持**  
ベストドレーン工法による暗渠管の施工により、地下かんがい機能を維持する事ができます。
- ④節水が可能に**  
必要な時に、必要な水量を供給する事ができるため、節水が可能になります。



▲ FOEAS システムの概要図



▲袋からあけた籾種を、そのまま播種していきます

整備後の圃場では、従来の移植栽培は勿論のこと、省力化を主な目的とした「乾田直播栽培」も取り組みが始まりました！

フォアスのメリットを最大限活用できる作型だけに、今後の今金水田農業活性化の旗手として大きな期待が寄せられています！

水稻乾田直播  
栽培にも期待大！

# 檜山農業改良普及センター檜山北部支所より

## ～営農技術情報2015 6月号～

	今後の農作物管理		今後の農作物管理
水稲	<p><b>◎適切な水管理で分けつ促進を図りましょう！</b>  <b>7月1日の㎡莖数500本以上を目標に</b>  <b>(中苗:25本/株、成苗:23本/株)</b></p> <p>・晴天時は浅水・止水とし、入水は夜間～早朝に行うなど、基本技術の励行。また、①イネハモグリバエ、イネスズウムシ、フタヒコヤガ等の被害有無確認と防除、②除草剤の薬害(成分による注意事項確認)、③「ワキ」による生育不良・遅延などに十分注意。「ワキ」に対しては、適宜、水の入れ替えや天候の安定した時期に速やかに「中干し」を行うことで根の障害を回避する。但し、幼穂形成期前迄に終了。</p> <p>・苗床の土壌分析実施と必要な改善策を！          成苗ホトや型枠苗の置床では低pH・高リン酸の問題が顕著になっています。⇒苗の異常褐変症状:主に1葉～2葉目、苗質低下へ。土壌診断(pH、EC、リン酸、塩基等)を行い必要な改善を図りましょう。⇒石灰及び苦土資材でpH矯正とバランス(石灰、リン酸、苦土)調整を。</p>	大豆	<p>・ジャガイモヒゲナガアブラムシの防除              1回目 初生葉が展開したとき(クレーザー処理時は不要)              2回目 1回目の7～10日後              3日目 2回目の7～10日後(発生に応じて行う)</p>
		てんさい	<p>・病害虫の適期防除              根腐病は6月中～下旬頃から発生し、連作や短期輪作ほ場で発生が多くなります。              害虫対策のためほ場をよく観察し、食害の程度を考えて防除の必要性を検討しましょう。              ヨトウムシ:被害株率50%以上で即時防除              テンサイモグリハナバエ:12葉期の被害株率100%・被害葉(食害面積1/4以上)5枚/株以上で即時防除</p>
秋まき小麦	<p>・止葉期以降の追肥              平年より生育がやや進んでいます。莖数や葉色を確認し、止葉期の追肥を行いましょう。              今時期の追肥は、子実の充実やたんぱく質の向上に効果があります。葉色が薄い畑は、早めに追肥を行いましょう。また、赤かび病防除時の尿素2%液の散布も子実の充実に効果があります。葉焼けが起きる場合がありますので、朝晩の涼しい時間に散布しましょう。</p> <p>・赤かび病防除              穂全体に薬液がかかることで、開花時期の赤かび病菌の感染を防ぐことができます。穂の全体が、出揃ってから防除を行いましょう。1回目で2回目の防除を確実にすることが重要です。</p>	畜産	<p>・牧草の刈取り適期は出穂期です！作業は天候の推移を見極めて行い、乾草からサイレージへ変更するなどの場合を想定し準備をしましょう。ロールアップサイレージは早期密封を心がけ、ビニール破損に注意し、破損したら早期に補修しましょう。</p> <p>・農場の衛生管理              農場内への部外者の立ち入りや車両の通行を制限しましょう。病原菌の侵入を防ぐため、踏み込み消毒槽を設置してください。</p>
		ブロッコリー	<p>・定植後の管理              コナガ、ヨトウガ(ヨトウムシ)の発生時期になっています。コナガの発生は平年より早く、やや多い状況です。ヨトウガは発生時期は平年並でやや多発の予想です。発生状況の確認と、防除の準備をしましょう。              中耕および培土は、1回目が定植後10～14日目頃、2回目は定植後20～25日目頃(うね間が葉でふさがり頃)に追肥を兼ねて行います。</p>
ばれいしょ	<p>・疫病防除について              疫病は、初発時の防除が重要です。              ほ場の確認と「FLABS」による危険日到達予測を参考にし、適期防除に努めましょう。</p> <p>・ジャガイモヒゲナガアブラムシ飛来予測              4月1日からの積算気温で飛来時期を予測することができます。平年は5月末となっています。発生状況を十分に観察し、効果的な防除を実施しましょう。</p>	軟白長ネギ	<p>・農薬の適正使用              ネギハモグリバエが近年多発傾向にあります。葉を観察し白い点状の成虫食痕が見られたら薬剤散布を行って下さい。白い線状の幼虫被害が出てからでは防除の効果は得られにくいです。              農薬の使用に当たっては、希釈倍率、特に収穫間近のものは使用時期に注意し、計画的に防除を行いましょう。</p>
(大豆・小豆)	<p>・除草剤の適正使用              パワーガイザー液剤を使用する場合は、散布時期や飛込に十分注意して下さい。</p> <p>・茎疫病に注意              排水不良のほ場や多雨などでほ場が滞水すると多発します。気象情報に留意し、過去に発生したほ場では発病前(6月下旬～)に予防防除を行いましょう。</p>	ニンジン	<p>・除草剤の適正使用              ゴーゴーサン乳剤30は、は種後出芽前(200～400ml/10a)に使用します。              ロックスは、は種直後(100～200g/10a)、もしくはニンジンの3～5葉期、雑草発生始(100～150g/10a)に使用します。              ニンジンは、出芽後から3葉期末までは薬害のおそれがあるので散布時期を間違わないよう注意して下さい。</p>

檜山農業改良普及センター檜山北部支所

TEL 0137-84-5514 / FAX 0137-84-5596 / E-mail hiho-nokai-hokubu.11@pref.hokkaido.lg.jp

URL <http://www.hiyama.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>



## 今回のテーマは 乳牛の分娩間隔と乳量について

乳牛は分娩後に泌乳を開始すると、個体によって様々ですが、おおよそ50日を過ぎたあたりから泌乳のピークを迎え、その後泌乳量はどんどん下降していきます。つまり、分娩後の受胎が大幅に遅れてしまった場合、泌乳期間が低乳量のままで延長します。

### 分娩間隔が延長すると・・・

分娩間隔の延長に伴い、乳生産効率は低下すると予測されます。低乳量の個体が増えることで牛群全体の乳量も低下してしまいます。また、受胎せず泌乳量が低い時期が続くと体のエネルギー消費が低下し、肥満傾向に陥ってしまいます。そのため、次の分娩時に難産になったり、分娩後にケトosisなどの周産期疾病に罹患する可能性が高くなってしまいます。

### 理想の分娩間隔は・・・

様々な資料をみると、380～385日となっています。そのため、分娩から受胎までの日数は、分娩間隔の日数から妊娠期間の280日を差し引いて、100～105日が理想的といわれています。

### 理想的な分娩間隔を達成するためには・・・

繁殖成績が大きく影響するため、農家さんが日々行っている発情発見や、それに伴う初回授精を適切な時期に行うことなどが重要となってきます。発情兆候が微弱であったり、わかりづらい場合には、ホルモン処置による授精機会の増加やストレスを軽減させるなどの環境の改善が有効となります。

また、初回授精については、目標値として分娩後80日以内に行うとよいと言われています。子宮や卵巣機能は分娩後40日頃までには回復すると言われていますが、難産や周産期疾病などが原因で、回復が遅延し初回授精が遅れてしまうため、その場合は子宮の治療やホルモン剤を使った繁殖プログラムが有効な対策となります。

これからの季節は暑熱ストレスなどによって、子宮回復が遅れてしまったり、受胎率の向上が難しくなってしまうと思います。1頭でも多く、分娩間隔を長引かせすぎないよう発情発見や不受胎牛の早めの対処に力を入れて行きましょう。因で、回復が遅延し初回授精が遅れてしまうため、その場合は子宮の治療やホルモン剤を使った繁殖プログラムが有効な対策となります。



※このコーナーでは、酪農家の皆さんからの疑問・質問を大募集中です！  
取り上げて欲しいテーマ等ありましたら、ぜひ農業経営課までご連絡下さい。

# 今からすぐにやってみよう！

今すぐできる

～農作業事故の対面調査から得られた事故防止対策～

## 機械作業を中断するときはエンジン停止！

刈払機の刈刃やトラクターのロータリなど危険な部分に接触する事例がありました。が、機械での作業を一時中断するときに、エンジンをかけたままにしておいたことが原因の1つでした。

機械操作を中断するときは必ずエンジンを止める習慣を身につけましょう。

## 駐停車をするときは、駐車ブレーキを確実に！

停めたトラクターが勝手に動きだし、転落事故やケガに至った事例がありました。が、駐車ブレーキが確実にかかっていなかったことが原因の1つでした。

トラクター等を駐停車するときは、駐車ブレーキを確実にかける習慣を身につけましょう。

## 「ちょっとだけだから」は危険！

トラクターが転落した事例や回転刃のチップソーで眼を負傷した事例がありました。が、ちょっと(の移動、の間)だけだからと、左右ブレーキの連結や、防護メガネを装着しなかったことが原因の1つでした。

「ちょっとだけ」でも、危険なものは危険です。常に安全な操作や装備を心がけましょう。

ここでは、事例に応じた対策を記載していますが、実際には、使用する機械や道具の状態、ほ場や農道の状況によって、現場に応じた様々な対応策が考えられます。地域における農作業事故根絶に向けて、どのような取組がもっとも効果的か、地域の皆様で継続して検討していきましょう。



この他にも農作業安全情報をHPに掲載！

農水省 農作業安全

検索